

令和4年度第1回千葉市生涯学習審議会議事録

- 1 日時 令和4年7月26日（火）
午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 場所 千葉ポートサイドタワー6階 601号会議室

3 出席者

(1) 委員

岩切 裕会長、菊池 まり副会長、伊藤 節治委員、江波戸 正子委員
鎌田 栄委員、鈴木 巧委員、高橋 理枝委員、竹内 昌夫委員、
萩原 博委員、矢澤 正隆委員

(2) 事務局

磯野 和美教育長、宮本 寿正教育次長、佐々木 敏春生涯学習部長、中
島 千恵中央図書館長、内海 豊生涯学習振興課長、佐久間 仁央文化財課
長、上田 昌弘生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長、蚊谷 友浩文化
財課新博物館整備担当課長、土肥 慶典生涯学習振興課課長補佐、木村 隆
之生涯学習振興課管理主事、田近 裕介放課後こども対策班主任査、野中 智
史管理班主任査、鬼嶋 望管理班主任主事

4 議題

- (1) 第6次千葉市生涯学習推進計画策定について
- (2) 第5次千葉市生涯学習推進計画の進捗について

5 議事概要

- (1) 第6次千葉市生涯学習推進計画策定について
事務局が説明し、各委員から意見を聴いた。
- (2) 第5次千葉市生涯学習推進計画の進捗について
事務局が説明し、各委員から意見を聴いた。

6 会議経過

議事に先立ち、事務局から資料の確認、会議の公開及び議事録の承認方法、
会議の成立委員紹介、職員紹介を行った。

- (1) 第6次千葉市生涯学習推進計画策定について

○（岩切会長）

それでは、これより議事を始めさせていただきます。

まず初めに、「議題1 第6次生涯学習推進計画策定について」です。

昨年3回の審議会を経て、目標から施策展開の方向性、基本施策と施策体系
をまとめ、それらの実現に向けたアクションプランの策定に至りました。

今回、計画書（案）が形になり、これらの施策の成果を図る指標についても審

議しますが、実質的な議論は本日が最後になろうかと思います。

次回は、本日の皆様のご意見やパブリックコメントを反映した計画書（案）の答申となりますので、忌憚のないご意見を出していただきたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いします。

○（内海生涯学習振興課長）

生涯学習振興課の内海でございます。

「第6次千葉市生涯学習推進計画（案）について」についてご説明させていただきますが、まず、これまでの策定経過とこれからの予定をご説明させていただきます。

資料が前後しますが、資料1－2をお願いいたします。

この資料1－2の169ページをご覧ください。

これまで、生涯学習審議会をはじめ、総合教育会議や、社会教育委員会、教育委員等からご意見をいただき検討を進めてまいりました。

昨年7月の令和3年度第1回審議会で諮問させていただき、12月の第2回、今年3月の第3回審議会で多くのご意見を賜り反映させてまいりました。

これまでのご意見を踏まえた上で、今回7月の令和4年度第1回審議会で計画書の形にまとめさせていただくとともに、成果指標の案を作成いたしました。

今回は、この成果指標を中心にご審議いただき、先ほど会長からもお話がありましたとおり、計画書（案）を取りまとめます。

なお、今後の予定としましては、この計画書（案）を、同時に策定を進めている第3次千葉市学校教育推進計画と共にとりまとめ、8月25日の政策会議で市としての（案）の方針決定し、10月にパブリックコメントを実施する予定です。

次回の第2回審議会を12月に予定しており、その際にパブリックコメントで出た市民意見とその反映についてご報告させていただくとともに、答申書（案）をご確認いただきたいと思います。

その後、来年1月の教育委員会会議で教育委員会として計画の承認を受け、2月に計画書を公表する予定でございます。

つづきまして、計画の全体像を資料に沿ってご説明いたします。

資料1－1にお戻りください。

「学校教育推進計画」「生涯学習推進計画」の概要版です。

1ページは、本市における両計画の位置づけ、計画期間等を記載しております。これらについては、これまでの審議会でご説明させていただいたとおりでございます。

つづく2ページ、3ページは「学校教育推進計画」についての総論、各論で、「生涯学習推進計画」については4ページ、5ページとなります。

4 ページをご覧ください。

「総論」の概要をまとめており、左側の 1 ～ 5 はこれまでの審議会でご意見をいただきまとめたものでございます。

右側には、今回、それらを端的に示した概念図を作成いたしました。

5 ページをご覧ください。

「各論」の概要をまとめており、計画の「目標」から「施策展開の方向性」、「基本施策」について記載しております。

今回は、基本施策ごとにその成果を図る、「成果指標」を設定するとともに、基本施策を踏まえた「アクションプラン」44 事業を記載のとおりとりまとめました。

資料 1 － 2 が計画の本編になりますが、「成果指標」について、設定の考え方と設定した成果指標を一覧にまとめた資料 1 － 3 「成果指標考え方」を作成しましたので、この資料 1 － 3 で説明させていただきます。

資料 1 － 3 の 1 ページをご覧ください。

「1 第 6 次計画における成果指標の考え方」ですが、

(1) 個人の主観、感じ方の違い等の曖昧な指標から客観的な数値を用いた指標に変更しました。

(2) 行政が実施した事業に対する市民の反応を数値で測れるものを成果指標に設定しました。

(3) 「生涯学習基礎調査」と「WEB アンケート」で同様のアンケートを実施しましたが、回答に大きな乖離が見られ、経年での比較が困難でした。

(4) アンケートが必要な数値は参考指標とし、「生涯学習基礎調査」は令和 9 年度の中間見直し時、令和 13 年度の次期計画策定時に実施する方向で検討します。

「2 第 5 次計画の成果指標の問題点」ですが、これまでの計画策定原案等で示してきたとおりで、計画書（案）にも記載しております。

「3 生涯学習審議会での意見」ですが、これまでの生涯学習審議会でも成果指標についていただいた意見を記載しております。

これらを踏まえて、第 6 次計画の成果指標を基本施策ごとに設定しました。

2 ページをご覧ください。

基本施策 1 － 1 「生涯学習の普及啓発」については、市民に学びの楽しさ、大切さに興味・関心を持ってもらえるよう、様々な機会を活用して情報を発信し、学習のきっかけづくりにつなげる事業を実施し、それに対する市民の反応として、イベント等に来場することでどれくらい普及啓発を図れたかを把握するため、「生涯学習イベント延べ来場者数」を成果指標に設定しました。

基本施策 1 － 2 「学習環境の整備」については、快適で参加しやすく、新しい時代に合った学習環境の整備を行うとともに、子どもや若者をはじめ、あらゆる世代が利用しやすい環境づくりを進め、それに対する市民の反応として、生涯学習施設が利用されることでどれくらい学習環境の整備が図られたかを把握する

ため、「生涯学習施設延べ利用者数」「生涯学習センター施設稼働率」「公民館の施設稼働率」を成果指標に設定しました。

基本施策２－１「郷土や地域への愛着を深める学習機会の提供」については、郷土や地域に対する理解と愛着を深めるため、市の歴史や文化資源を活用するとともに、地域に密着した資源も活用した学習機会を提供する事業を実施し、それに対する市民の反応として、講座を受講することでどれくらい郷土や地域の理解を図ることができたかを把握するため、「郷土の理解を深める講座受講者数」「身近な地域の理解を深める講座受講者数」を成果指標に設定しました。

基本施策２－２「市民ニーズに対応した学習機会の提供」については、多様化する社会において、多岐にわたる市民の学習ニーズに対応するとともに、自発的な学習ができる機会を提供し、それに対する市民の反応として、どれくらい自発的な学習活動を支援できたかを把握するため、「公民館延べ利用者数」「学習相談者数」を成果指標に設定しました。

基本施策２－３「現代的課題に対応する学習機会の提供」については、急速に変化する社会において、新たな時代の課題に対応するとともに、生命や生活を守るための学習機会を提供する事業を実施し、それに対する市民の反応として、どれくらい現代的課題に対応する学習機会を市民に提供できたかを把握するため、「現代的課題に対応する主催講座受講者数」を成果指標に設定しました。

基本施策３－１「地域の担い手となる人材の発掘・育成」については、地域における学習活動の活発化を図るため、リーダーやファシリテーター、ボランティア等の人材を発掘・育成する取り組みを実施し、それに対する市民の反応として、どれくらい発掘・育成につながったかを把握するため、「指導者養成研修受講者数」「ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数」「ちば生涯学習ボランティアセンターコーディネート数」を成果指標に設定しました。

基本施策３－２「市民の参加・協働による学習成果の活用」については、学んだ成果が地域に還元され、様々な課題の解決が図られることで、持続可能なコミュニティの形成につながる機会を提供し、それに対する市民の反応として、どれくらい還元していただいているかを把握するため、「市民自主企画講座受講者数」「博物館ボランティアガイド解説受講者数」を成果指標に設定しました。

これらの「成果指標」と、「アクションプラン」を資料２の「計画書」に記載いたしました。

説明は以上でございます。

ご審議くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○（岩切会長）

ありがとうございます。まず、資料１－１「第３次千葉市学校教育推進計画」「第６次千葉市生涯学習推進計画」概要版についてご質問ございますか。

○（矢澤委員）

４ページの計画目標ですが、前回の審議会の「新しい時代の市民の学びを支え、生活や地域・社会に生かせる環境をつくる」から「新しい時代の市民の学びを支え、生活や地域・社会に生かし、多様な主体と連携し合えることで持続可能な社会を形成できる環境をつくる」に変更した経緯をお教えてください。

○（内海生涯学習振興課長）

生涯学習の推進にあたっては、行政だけではなく企業や社会教育団体と連携して行っていかなければならないと思います。昨今、SDGsで言われている持続可能な社会の実現を目指すことは生涯学習の1つのテーマであると考えておりますので、そのようなものを新たに盛り込ませていただいております。

○（矢澤委員）

多様な主体と連携とは、地域団体、それに携わる様々な団体との連携ということでしょうか。

○（内海生涯学習振興課長）

はい。行政だけではなく地域団体や企業等多くの方々と連携して、より良い生活ができるように、互いに切磋琢磨して社会を形成していきましょうということです。

○（矢澤委員）

それであれば、連携より協働という言葉が意味合い的に近いと思います。協働という言葉を入れていただくことで、一層行政と市民が一緒になって行っていくということが明確になると思います。

○（内海生涯学習振興課長）

ご意見を踏まえ、検討させていただきたいと思います。

○（佐々木生涯学習部長）

補足させていただきます。4ページ下段にある地域課題の解決に向けた「千葉市の生涯学習を支える連携イメージ図」をご覧ください。ことで、計画目標にある多様な主体との連携について想像していただけるかと思います。

○（伊藤委員）

5ページの方向性3「学習を生かした活力あるコミュニティづくり」に関連して、以前いただいた「令和3年度 千葉市生涯学習基礎調査報告書」の内容で気付いた点がありますので意見させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の流行を経験して、地域コミュニティの重要性が再認識されてきていますので、この方向性3の強化は必須ではないでしょうか。

一方、「令和3年度 千葉市生涯学習基礎調査報告書」で、関連団体へ現在抱える問題について質問していますが、担い手である会員の固定化・高齢化や会員数の減少が問題だと回答している団体が多数ありました。これは今ある活動団体が弱体化しているといえるのではないのでしょうか。したがって、新たなボランティアの発掘が急務だと考えます。

他に、ここ1年間に行った生涯学習活動についてという質問の回答は、個人的なことが9割以上で、ボランティア等の地域活動が1割以下となっています。

この結果は、そもそもコミュニティづくりに役立つ生涯学習の数が少ないためであり、その機会を増やす必要があるのではないかと考えています。

生涯学習で身に付けた知識が、個人で完結することなく社会還元されるように、

講座・ワークショップを連続的に行う等、プログラムを工夫してもらいたいと思います。

実際活動した内容と同じ内容の生涯学習活動を今後も行いたいかという質問の回答で、ボランティア活動が高い割合を示したというのは、それだけボランティア活動を行ったときの満足度が高いことを示しているのではないかと思います。

ボランティア等の地域活動、コミュニティづくり関連のプログラムを増やすことにより、地域の担い手である会員のなり手が増え、今ある活動団体の弱体化を防ぐことができるのではないのでしょうか。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

ご意見いただいた方向性3についてですが、資料1－2「第6次千葉市生涯学習推進計画（案）」において、ボランティアの育成、生涯学習センターにある生涯学習ボランティアセンターの新たな活用、コーディネート件数の増加等をアクションプランとして位置付けました。今まで行ってきたことをより進めることとあわせて、これまで行っていなかったことにも力を入れていくことについての必要性は、今回のアンケート結果に如実に表れておりますので、市として力を入れて取り組みたいと考えております。

○（伊藤委員）

先程の1年間に行った生涯学習活動についてという質問で、ボランティア等の地域活動が3割ぐらいに増えないと、ボランティアに携わる人が減少してしまうのではないかと考えますので、努力してもらいたいと思います。

○（岩切会長）

私からも資料1－1「生涯学習推進計画」の概要版にある計画目標について意見がございます。1つは文言が長く感じます。もう1つは「多様な主体と連携し合えることで」という箇所の「～ことで」という表現は、「連携して」や「連携・協働により」等、もっと主体的な表現がいいのではないかと思います。

○（岩切会長）

次に、資料1－3「第6次生涯学習推進計画 成果指標 考え方」についてご質問ございますか。

○（鈴木委員）

2ページの「基本施策1－1生涯学習の普及啓発」の生涯学習イベント延べ来場者数や「基本施策1－2学習環境の整備」の生涯学習施設延べ利用者数には、具体的な数値目標はございますか。

○（内海生涯学習振興課長）

数値目標につきましては、皆様にお示ししてご了承いただいた内容で進めてまいります。

○（鎌田委員）

成果指標についてですが、実際ここに挙げている延べ来場者数、利用者数等の数値が、本当にその施策の成果を表しているものなのでしょうか。

講座受講者数やコーディネート数が増加することが本当の目的ではなく、講座受講者がその後どのような結果を出したとか、コーディネートしたことが相手方のなんらかの成果に結び付いたとか、そういったものが成果だと思います。

そういったことを踏まえてお考えを伺いたいと思います。

○（内海生涯学習振興課長）

たとえば、基本施策３－１「地域の担い手となる人材の発掘・育成」ですが、現在公民館は自己啓発の学びの場にとどまっていると考えております。

本市は、身に付けた知識を地域に還元してもらうことにより学びが循環することを目指しています。そのためには、知識を身に付けている市民の数を増やし、さらに新たな人材を発掘していかなければなりません。

行政だけでは解決が難しいそれぞれの地域課題を、学びの地域還元によって、地域の中で解決していただきたいと考えております。

地域の担い手となる市民を増やすためには、地域課題解決等に興味を持っていられる指導者養成講座に受講していただく必要がございます。

受講者数が多ければ、それだけ興味を持って受講した人数、すなわち知識を身に付けた市民が増えていだろうとの判断ができるということで成果指標とアクションプランをリンクいたしました。

○（佐々木生涯学習部長）

補足させていただきます。１つの例として基本施策３－１の第６次計画の成果指標として、ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数がございます。

この基本施策３－１は「地域の担い手となる人材の発掘・育成」であり登録者数が増えることで終わりではなく、登録者が増えた中でマッチングが増えたかどうか非常に大切だと考えております。

基本政策３－１ですと、第６次計画の「②ボランティアセンター登録者数」を増やすことと「③ボランティアセンターコーディネート数」を増やすことをセットにすることによって、登録者数だけを目指すのではなく、登録した人がどうやってマッチングしていくかという部分で相乗効果が生まれると考えております。

○（鎌田委員）

ただ登録した受講したではなく、その先に具体的にどのような活動をしたか、どんなボランティアをしたか等を意識した成果指標を設定したほうがよいのではないのでしょうか。

次に、基本施策１－２の生涯学習センターや公民館の施設稼働率の考え方をお教えてください。

施設を稼働するかしないかは、施設管理者の状況や考え方で変動すると思います。

施設を開館していれば稼働率が上がりますので、これを成果指標してしまうと開館していれば成果が上がっているということになってしまいませんか。

○（内海生涯学習振興課長）

施設の稼働率につきましては、ただ建物があるだけでは、決して稼働率は上がることはないと考えております。

学習環境の場所としてハード・ソフトの両面で整うことによって稼働率が上がり、利用者数も増えるだろうとの考えから、アクションプランと成果指標をリンクさせた形としました。

○（竹内委員）

行政にとっては、施策の結果を数値で説明できることが一番わかりやすいだろうというのは思います。特に、入場者数・利用者数、施設の稼働率等が低迷しているときは施策の可否が問われますので、こういう客観的な数値が必要だと思います。ですが、数値は独り歩きしてしまうこともありますので、その数値が何を意味するものなのか解釈、分析を行わなければならないと思います。

生涯学習は、参加する市民の意欲が大切です。その意欲等人間の気持ちを表すようなものもデータとして持続的に収集していただき、そこで得られた結果と入場者数等の客観的な数値により成果があったかどうかを検証していただき、数値についてはその都度見直していけばよいのではないかと思います。

○（内海生涯学習振興課長）

第6次計画の成果指標は客観的な数値を用いることとしましたが、最終的にアンケートが必要なものにつきましては、計画の中間見直し時や第7次計画の策定時に生涯学習基礎調査により調査する予定です。

それとは別に毎年利用者アンケート等を公民館等で行っておりますので、逐一市民の希望の把握に努めてまいりたいと思っております。

○（萩原委員）

生涯学習に携わることで、その本人が成長していくことや、逆に徐々に意欲が失われていくというような、その本人の中の意欲に対する変化もあると思います。そういうことも把握できるようなやり方を導入していただけたらよいのではないかと思います。

○（岩切会長）

委員の皆様が気にされている個人の主観や、感じ方等の他者には判断が難しく客観的な数値を用いた成果指標では測ることができない部分につきましては、市全体で行う市民意識調査やWEBアンケート等の調査項目になるのではないのでしょうか。

成果指標がすべてではないとご理解いただければと思います。

○（竹内委員）

公民館は、生涯学習といっても成績を上げることや何かに意欲的に取り組むというようなことではなく、お互い生きる喜びを共有して明日への活力とするというようなことが活動の原点ではないでしょうか。ですから、集まって話をするだけでも意味があると思います。生涯学習といってしまうとスケールの大きなものをイメージしますが、そういった身近な視点も取り入れてもらえればと思います。

○（内海生涯学習振興課長）

委員がおっしゃるように、公民館は社会教育施設として学びの場であると同時に、災害時の避難所や空きスペースを学習室・自習室として開放して子どもたちの居場所にする等、他のどの施設よりも市民にとって身近な施設となっております。

公民館に求められているのは、社会教育施設としての学びの場だけでなく、他の部分でも期待を寄せられていることは重々承知しておりますので、期待に沿えるよう対応していきたいと考えております。

○（矢澤委員）

市民が公民館に行く理由は、学びを通して仲間を求めたいからだと思います。

同じものに興味関心を持つ仲間を作って、自主活動やサークル団体等に発展させたいというのが、公民館に来る大きな視点ではないかと思います。こういう視点を数値とは違う形でお示しいただければよろしいのではないかと思います。

○（伊藤委員）

基本施策3-2に「市民の参加・協働による学習成果の活用」ですが、市民の参加・協働というのは大きなテーマですので、指標としてももう少し直接的な指標がいいのではないのでしょうか。市民と公民館の協働が行う歴史講座等がありますが、このように公民館と市民が協働して講座等を実施する数を成果としてあげることはできませんでしょうか。

○（内海生涯学習振興課長）

ご意見を踏まえ、検討させていただきたいと思います。

○（岩切会長）

次に資料1-2「第6次千葉市生涯学習推進計画（案）」ですが、138ページから3つの柱として、各論について述べられています。まずは138ページから145ページの「1 学習活動のきっかけと場の提供」について、ご質問はございますか。

○（矢澤委員）

145ページに「No. 5 生涯学習施設の老朽化への対応」の項目に若葉図書館・千城台公民館の再整備のことが記載されています。公共施設の老朽化は避けられない問題ですが、今後公民館と図書館の複合化も含めて、どういう役割で施設を複合化させるのか教えてください。

○（内海生涯学習振興課長）

47公民館のうち、約4割が築40年を経過しております。

法定耐用年数は50年、手を加えれば60年は使用することができますが、多くは老朽化が進行しており、待ったなしの状況になっております。

私見ですが、社会状況の変化によりあれもこれも全部という時代から、どちらかを選択しなければならない時代に移行していると感じております。そうしなければ、将来を担う今の子どもに大きな負荷を負わせてしまうことになります。

145ページの「No. 5<1>社会教育施設保全計画の策定」にございますが、図書館だけでなく公民館と他の公共施設というように、可能な限り地域の方たちに負担不利益にならないよう、検討してまいりたいと思います。

今までの公民館に求められていた学びの場にプラスアルファが求められておりますので、そういったものを時代とともに加えていきながら、よりよい公民館にしていきたいと考えております。

○（矢澤委員）

せっかく公民館と図書館が複合化されるので、その役割をお互いが連携できるようなかたちのものをぜひお考えいただきたいと思います。

○（内海生涯学習振興課長）

若葉図書館と千城台公民館の複合化につきましては、今年6月に2回ワークショップを実施し、さまざまなご意見をいただいております。今後は利用者アンケート、WEBアンケート、働いている方々へのアンケート、さらに近隣の小中学校にワークショップ等の実施を検討しております。皆様のご意見を可能な限り取り入れて、よりよい施設にしたいと考えております。

公民館と図書館はただ単に複合化するわけではなく、連携して相乗効果をあげていきたいと考えております。

○（中島中央図書館長）

今公民館についてお話がありましたが、図書館につきましても同様に老朽化が進んでいるところでございます。花見川図書館に続き、若葉図書館の複合化がございしますが、まずは市民の皆様の利便性の向上と、複合化施設としての相互利用の促進という視点を持って進めていきたいと思います。今後、老朽化への対応等がございますので、周辺施設の状況や地域の皆様の利用ニーズの動向等を総合的に勘案いたしまして、バリアフリー化等も含めまして、公民館と図書館だけの複合化だけでなく、全庁横断的に検討を進め、それに伴う保全計画を策定していきたいと考えております。

○（萩原委員）

現在、図書館はずいぶん変わってきていて、昔は静寂のなか、文字どおり読書・学習の場でしたが、今はそれだけの場でなく、図書館の中でもいろんな声を出せる活動を行っているようです。145ページを見ても、新しい試みを行っている公民館、図書館がイメージできないと思います。

地域の公民館・図書館を再整備して複合化するのであれば、昔ながらの図書館のイメージではなく、これからの新しい時代を見据え、図書館の中に公民館の役割を持たせるような形も検討されたらどうかと思います。

○（中島中央図書館長）

ご意見ありがとうございます。図書館も少しずつ変わってきておりまして、図書館から情報を発信したり、小さなお子様が使うスペースでは多少お話することがあるスペースのある図書館もございます。今いただいたご意見をもとにアクションプランにつきましても検討させていただければと思います。

○（高橋委員）

図書館のバリアフリー化と利便性の向上は今後非常に大事なところになってくると思いますので、是非進めていただければと思います。

基本的な質問ですが、成果指標とアクションプランの関係性について教えてください。

アクションプランには、図書館のサービス部分についての多数記載がありますが、アクションプランで設定した目標を達成しつつ、成果指標に結び付けていくという考え方でよろしいでしょうか。

あわせて、施設の稼働率とアクションプランとの関係性はどのように図るのか、何か計算方法があるのか、もう少し詳しく教えていただければと思います。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

アクションプランと成果指標の関係性ですが、各基本施策の施策方針に基づいて推進実施していくために、取り組まなければならないことをアクションプランに位置づけして、そのアクションプランを実施していくことで、成果指標も達成されていくという関係性でございます。

施設稼働率の考え方ですが、1つの部屋の使用単位が「午前・午後・夜間」の3コマに分かれており、3コマすべてが使用されれば100%、2コマ使用されれば67%というような計算方法で全館各部屋の積み上げを行い、出た結果が使用する数値となります。

○（岩切会長）

私も1つ意見を申し上げたいと思います。今までのアンケート結果等を見まして、行政でいろいろと実施していても、市民への周知が弱かったのではないかと感じます。

情報提供と学習相談がうまく機能しなければ、アクションプランに位置付けた試みもうまく成果が出ないのではないのかなと思います。

例えば、生涯学習センターに生涯学習の総合窓口のようなものができたらいいのではないかと思います。

学ぶ場と学ぶための情報提供の充実という記載がございます。市民へ情報提供がなにより重要なので、ぜひ充実という部分について具体的なところまで考えて検討していただければと思います。

○（矢澤委員）

生涯学習センターの役割は情報提供と学習支援だと思いますが、その役割をうまくはたしていないと感じます。情報提供も学習支援もが生涯学習センターのなかで終わっていて、公民館まで届いていません。生涯学習センターに行くことができる市民はそれでいいかもしれませんが、普段公民館を利用している市民には伝わってこないのではないかと思います。

○（岩切会長）

市としての情報提供の体制を作ってもらえればという考えから、1つの例として生涯学習センターについて申し上げました。そのために指導者養成講座等がございますので、そのようなプログラムを利用して連携と効率が図れていければよ

いかと思います。

○（佐々木生涯学習部長）

矢澤委員、会長からも指摘がございました点につきまして、153ページの「No. 8 公民館への社会教育主事有資格者配置」に記載がございます。

公民館の社会教育主事の配置を年3名程度増やしております。

<1>に社会教育活動の活発化や、地域住民からの相談対応の記載がございますが、正にこれが社会教育主事の果たす役割だと思います。

あわせて、157ページの「No. 6 地域課題の解決に向けた取組み」のなかに、地域課題の解決に向けた講座に153ページにある社会教育主事有資格者の配置をあえて再掲しております。これは社会教育主事の力を借りて、地域課題を解決に向けた講座を充実することとともに、社会教育主事に地域の方々のつなぎ役になっていただき、地域課題の解決につなげる、相談の体制を充実していくということを仕組みとして考えていく必要があると考えたからでございます。

○（岩切会長）

ありがとうございました。では、次に146ページから157ページの「2 多様な学習機会の充実」について、ご質問はございますか。

○（矢澤委員）

148ページの「No. 4 郷土の理解を深める講座・事業の充実 <2> 千葉氏など郷土の歴史の理解を深める講座・事業」ですが、千葉氏についての講座は単発的に各公民館で講座を開催されていますが、理解を深めるため単発ではなく連続した講座を考えてもらいたいと思います。歴史的な変遷を学ぶことにより、千葉氏への理解が深まるのではないかと思います。

それから153ページの「No. 7 多様な主体による学習活動の推進」に多様な主体との連携という記載がありますが、どのように連携を進めていくのか具体的な施策があればお教えいただきたい。

○（佐久間文化財課長）

まず歴史の通史的な講座の点につきましては、主に公民館では郷土博物館の職員が講師として講座を多数開催しておりますが、委員のおっしゃるとおり単発講座が主になります。いままでは通史を1つのストーリーとして学ぶためのテキストがありませんでしたが、昨年度「史料で学ぶ千葉市の今むかし」という一般向けの分かり易い資料を郷土博物館にて作成いたしました。

今後、公民館でそれをテキストとして通史的な講座を開催していきたいと考えております。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

続きまして、全体としての連続講座の開催についてですが、公民館で1回ないし2回くらいの開催の講座が多くを占めております。やはり、連続して講座を受講することにより学びに対する造詣が深まり、同じメンバーで何度も講座を受講することで仲間意識が生まれることもあるかと思います。

指定管理者制度移行以後、公民館では講座の数は増えておりますが、あわせて

質の向上・充実に取り組む必要があると考えております。

質の向上・充実への取組として、連続して学べる講座を開催していくことも課題として今後取り組んでまいりたいと考えております。

もう1つ153ページの「No. 7 多様な主体による学習活動の推進」についてですが、資料1-1の4ページ下段に千葉市に生涯学習を支える連携・協働イメージ図があります。

さまざまな地域的課題を解決するための講座を公民館で開催するにあたり、専門的な部署や、その課題に取り組んでいただいている団体等と連携して各種課題に対応できる講座を開催することで、公民館が主体となって各地域に対して働きかけをしていくようなことを理由にして、多様な主体による学習活動の推進という項目を設定させていただいております。

○（菊池副会長）

156ページの「No. 4 家庭教育支援事業の実施」ですが、「＜2＞子育てママのおしゃべりタイムの実施」と同様に、「＜1＞家庭教育支援チーム」にも活動をとおして仲間づくりを支援するという文言があってもいいと思います。

ただ情報やサービスを提供すれば子育てがうまくいくというのではなく、地域で子どもを育てていくためのつながりづくりや、子育てする人の学びを高めること等の狙いがあるからこそ、この項目に入れられていると思います。

子どもを育てるための支援が生涯学習、社会教育のところで取り上げられる背景というのがこの文言に入るといいなと思います。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

いただいたご意見を踏まえ、検討させていただきたいと思います。

○（岩切会長）

私からも質問がございます。157ページ「No. 8 SDGsの達成に寄与する学習機会の提供」ですが、内容は特別史跡加曽利貝塚新博物館について記載されてありますが、科学館がこの内容にあたるのではないかと思います。ここには科学館の記載はされないのでしょうか。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

いただいたご意見を踏まえ、検討させていただきたいと思います。

○（萩原委員）

千葉市の4つの地域資源として「加曽利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」というのがありますが、これがどれくらい浸透しているのだろうかと思います。

特に「千葉氏」は目立った動きがないのです。教育委員会でも千葉氏の本を作られましたが、なぜ市内にある千葉氏を研究する2団体と連携して活動しないのでしょうか。

生涯学習は子どもの頃からスタートして、成長しながら生涯学習の土台を自分の中に形成していくと思っています。学んだ成果を発表することや何らかの形で披露することが大切ではないでしょうか。

地域で千葉氏を研究している方々に、学校で子どもたちに教えてもらう機会を

つくり、子どもたちも教えられたことを地域で発表する。そういう循環が起きないと、地域資源として浸透していかないと思います。

他県では、自分の地域の歴史や歴史上の人物のことを詳しく知っている小学生がたくさんいます。

千葉市の小学生は、千葉氏ことをどれくらい知っているのでしょうか。

生涯学習は連綿と続いていくわけですから、子どもたちが大人になって、今度は自分の子どもたちに教えていくという循環ができれば、郷土の歴史に対する誇りや認識が深まるのではないかと思います。

○（佐久間文化財課長）

学校教育のほうでも、マンガ「千葉常胤公ものがたり」を小学校に配布させていただいております。今の教育大綱の中でも、郷土教育の充実ということを謳っておりますので、博物館として学校教育の中で連携していくことや、地域で研究している方々が開催している一般向けの公開講座の子ども向けの講座の開催等につきまして、今後学校教育と連携して進めていければと思います。

○（岩切会長）

ありがとうございました。では、次に158ページから163ページの「3 学習を生かした活力あるコミュニティづくり」について、ご質問はございますか。

○（伊藤委員）

163ページの「No. 5 地域交流・多世代交流事業の実施」ですが、内容がイベント的な意味合いが強いのではないのでしょうか。もう少し日常的な場面できないかと思います。

私は近所のこどもカフェの手伝いをしているのですが、本来は子どもが立ち寄る居場所ですが、いつの頃からか地域で孤立している高齢者の方が2組くるようになり、その後高齢者同士で将棋をすることが定例化して、訪れることと毎回楽しみされている様子でした。そのように高齢者と子どもがいろいろな話をする場が公民館にできたらいいなと思いますが、市の職員だけではとても難しいと思いますので、市民ボランティアの方と協力して、日常的な交流の場を公民館に作るような検討はできないものかなと思います。

○（内海生涯学習振興課長）

公民館が一番身近な施設でございますので、市民ボランティアと協力してよりよい公民館になるよう努めてまいりたいと思います。

行政・指定管理者だけではなかなか難しいと考えておりますので、皆様のお力添えいただいて初めてより良い公民館ができるとおもいますので、検討させていただきます。

○（伊藤委員）

新しいことを始める場合、まずどこかの公民館でモデル的に開始して、進めていかなければなかなか難しいのかなと思います。

○（佐々木生涯学習部長）

補足させていただきます。これまでの公民館利用者は高齢の方の利用が多く、コロナ禍により難しくなった子どもたちの学習の場を確保する目的で、公民館の未利用時間を子どもたちに自習室として開放する新たな事業を行っております。

公民館は身近な施設ですので、子どもたちをどのように取り込んでいくのか新たな課題として認識しております。

先ほどこどもカフェのお話でしたが、近年社会問題として、子どもの居場所というものが問われております。

そういった状況や、若い世代から高齢者までの多世代交流の意味においても、子どもの居場所等もしっかり考えていく必要があると思っております。

こどもカフェにおいては一部成功した事例もございますので、それを参考にしながら公民館での望ましいかたちを検討していきたいと思っております。

○（矢澤委員）

162ページの「No. 1 市民自主企画講座や施設ボランティアによる学習機会の提供」についてですが、生涯学習センターと同様に公民館でも市民の自主企画講座ができないものだろうかと常々考えております。

次に、156ページの「No. 5 高齢化社会に対応した学習機会の提供」についてですが、すでに事業終了してしまいましたが、以前千葉県ことぶき大学校というものがありませんでした。

ことぶき大学校は大変人気があったと聞いております。

「＜1＞生きがいつくり・仲間づくり、健康・福祉に関する講座の開催」に記載されている高齢者の関心事である健康づくり、仲間づくり、福祉に関すること、認知症、遺産相続、健康等、こういったものをことぶき大学校では連続して講座を開催しているため、仲間づくりにつながっていると思います。

そのため、ことぶき大学校での受講が終了してもまた違う形で集うことや、サークルに進化するということがあると思いますので、公民館版のことぶき大学校、高齢者向けの大学、そういうものの検討できないものなののでしょうか。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

まず、市民自主企画講座につきましては、生涯学習センターと公民館の指定管理者である教育振興財団に対して、生涯学習センターと公民館部分との連携、市としての方向性や事業の進め方の考えについて伝えさせていただきます。直接、公民館に対しても働きかけをしていきたいと考えております。

公民館版ことぶき大学校ですが、ターゲットをどの年齢層に絞るか等いろいろ検討させていただきたいと思っております。

小中学生の頃から公民館に親しんでもらうために子ども向けの施策を進めていく考えがございますので、高齢者の生きがいつくり等を行う公民館にしていくということについては、いただいたご意見を取り入れさせて検討させていただきたいと思っております。

○（矢澤委員）

千葉市の出前講座を利用すればすぐにできると思います。連続講座の名称をことぶき大学校にする等工夫次第で、高齢者はいろいろな部分でかかわってくれる

のではないのでしょうか。

○（岩切会長）

いろいろご意見いただきありがとうございます。事務局は、本日委員の皆様からいただいたご意見を反映して計画書（案）をとりまとめていただきたいと思います。

事務局からは何かありますか。

○（内海生涯学習振興課長）

答申についてですが、これまでいただいたご意見、10月に実施する予定のパブリックコメントでのご意見等を踏まえまして、11月頃に答申書（案）を事務局で作成いたします。その後、12月に予定しております次回の審議会で反映させていただきました計画書とともに皆様にご確認いただきたいと思います。と存じます。

その後、来年1月の教育委員会会議で教育委員会としての計画の承認を受け、当計画が完成いたします。完成後2月に公表する予定でございますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○（岩切会長）

それでは次の議題に移ります。「議題2 第5次千葉市生涯学習推進計画の進捗状況について」でございます。

この議題については、大項目ごとに説明をさせていただきまして、各委員のご意見を伺いたいと思います。

それでは事務局より説明をお願いします。

○（内海生涯学習振興課長）

「第5次千葉市生涯学習推進計画の進捗状況」についてご説明させていただきます。こちらの計画は平成28年度から令和3年度までの6年間を計画期間として市民の生涯学習を推進するため策定された計画です。

なお、本市の「基本計画」や、国の「教育振興基本計画」の次期計画が令和5年度から開始する予定であることを踏まえ、次期生涯学習推進計画についても、その計画期間を令和5年度から開始することとし、現行の計画期間を1年延長し、令和4年までとしております。

それでは、資料の2-1「第5次千葉市生涯学習推進計画の進捗状況」に沿って説明をさせていただきます。

1ページをお願いします。

はじめに評価の基準を説明させていただきます。

中ほどの表に記載のとおり、「成果指標」における「達成状況」の記載については、各指標について令和3年度末の最終目標値の達成状況を、度合に応じて、「○・×」の2つの区分で示しております。

また、1ページ下の表に記載の通り、「アクションプラン」における「進捗状況」の記載については、各事業について令和3年度末の最終目標値の達成状況を

「順調・遅れ・休止・中止」の4つの区分で示しております。

補足でございますが、これらの進捗状況につきましては、「千葉市教育委員会事務点検・評価」の一部として掲載される予定でございます。

なお、分量が多いため、説明は大項目ごとに説明させていただき、ご意見等伺いたいと思います。

まず、大項目「1 学習活動のきっかけの提供」です。

2 ページをお願いします。

「1-1 生涯学習の普及啓発」です。

「成果指標1 生涯学習に関心のある市民の割合」については、令和3年度の実績は84.0%で令和3年度末の最終目標を下回っているため、達成状況は「×」となっております。

「今後の取組み等」につきましては、市民ニーズに応えた各種事業を実施するとともに、SNSを活用した情報発信や、情報誌やチラシ等の発行回数を増加することで、学習のきっかけづくりにつなげ、生涯学習に関心のある市民の割合が増えるよう努めます。

「成果指標2 生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」については、令和3年度の実績は57.7%で達成状況は「○」となっております。

今後は、SNSを活用した情報発信の拡充、情報誌やチラシ等の発行回数の増加、公民館の掲示板の活用等、各年齢層の利用者に届くよう、様々な手法を活用した情報発信を充実します。

アクションプランの進捗状況につきましては、4 ページ、5 ページの記載のとおりです。4 ページ黒帯のところについては、「アクションプランの進捗」と記載されております。

4 ページ記載の1 から3 のいずれの事業も、進捗状況は「順調」となっており、今後も継続して事業の推進に取り組んでまいります。

6 ページをお願いします。

「1-2、学習環境の整備」です。

「成果指標3 市の生涯学習施設が5年前よりも利用しやすくなったと考える市民の割合」については、令和3年度の実績は42.5%で、令和3年度末の最終目標を下回っているため、達成状況は「×」となっております。

今後も引き続き、各施設の修繕や備品の交換を計画的に実施し、利用しやすい施設となるよう学習環境の整備を進めます。

「成果指標4 生涯学習施設を年1回以上利用したことの市民の割合」については、令和3年度の実績は56.5%で、令和3年度末の最終目標を下回っているため、達成状況は「×」となっております。

今後は学習環境の整備を進め、市民ニーズに応じた各種事業を実施し、学習のきっかけづくりに努めつつ、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて生涯学習施設を運営します。

アクションプランの進捗状況につきましては、8 ページから 11 ページにございます。

1 から 9 の事業の進捗状況ですが、一部「遅れ」や「休止」がありますが、概ね「順調」となっており、今後も継続して事業の推進に取り組んでまいります。

以上が大項目「1 学習活動のきっかけの提供」の説明となります。

委員の皆様からご意見をいただき、今後の事業推進等に反映したいと考えておりますのでよろしくお願いします。

○（岩切会長）

ただ今の説明について、ご意見等ございましたらお願いします。

無いようですので、次の大項目の説明を事務局からお願いします。

○（内海生涯学習振興課長）

つづきまして、大項目「2 多様な学習機会の確保」です。

12 ページをお願いします。

「2-1 郷土への愛着を深める学習機会の提供」でございます。

「成果指標 5 郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合」は令和 3 年度の実績は 65.3%で達成状況は「○」となっております。

今後は、より多くの方に満足いただける学習機会を提供できるよう、引き続き、郷土への理解を深める講座・事業の充実等関連するアクションプランの充実を図ります。

アクションプランの進捗状況につきましては、14 ページから 17 ページまで記載しております。

1 から 5 の事業の進捗状況ですが、一部に「遅れ」や「休止」がありますが、概ね「順調」となっており、今後も継続して事業の推進に取り組んでまいります。

18 ページをお願いいたします。

「2-2 市民ニーズに対応した学習機会の提供」でございます。

「成果指標 6 公民館講座の参加者の満足度」については、令和 3 年度の実績は 98.0%で、達成状況は「×」となっております。

今後は、地域課題、利用者のニーズ、不満だった理由を的確に把握したうえで、実施時期等の検討をするとともに、講座内容や実施回数を充実し、満足度の向上を図ります。

「成果指標 7 科学都市千葉の認知度」については、令和 3 年度の実績は 40.6%で、達成状況は「×」となっております。

今後は、千葉市科学フェスタメインイベントや科学館事業の充実はもちろんのこと、展示物リニューアルの周知や、未来の科学者育成プログラム等、児童生徒向けの事業の充実を図り、「科学都市ちば」の認知度の向上を図ります。

アクションプランの進捗状況につきましては、20 ページから 25 ページに記

載してございます。

1 から 13 の事業の進捗状況ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部「遅れ」や「休止」がありますが、概ね「順調」となっており、今後も継続して事業の推進に取り組んでまいります。

以上が大項目「2 多様な学習機会の確保」の説明となります。
よろしく願いいたします。

○（岩切会長）

ただ今の説明について、ご意見等ございましたらお願いします。

○（伊藤委員）

18 ページ、「成果指標 6 公民館講座の参加者の満足度」ですが、目標が 99.5% は高すぎるのではないのでしょうか。高すぎて違和感がありますし、8 割ぐらいが満足すればいいと思いますが、どうでしょうか。

○（内海生涯学習振興課長）

令和 3 年度の実績が 98.0% ですので、目標はその実績よりも高い数値に設定しております。

○（岩切会長）

他にご意見ございますか。

無いようですので、次の大項目の説明を事務局からお願いします。

それでは大項目 3 に移ります。

○（内海生涯学習振興課長）

つづきまして、大項目「3 学びを生かしたコミュニティづくり」です。

26 ページをお願いいたします。

「3-1 地域の担い手となる人材育成」でございます。

「成果指標 8 市民ボランティア活動・地域活動への参加状況」につきましては、令和 3 年度実績は 18.9% で、達成状況は「×」となっております。

今後は、市民ニーズを踏まえボランティア活動・地域活動に関する各種講座の充実を図るとともに、活動の周知や活動場所の発掘等に努め、学習成果を地域に還元できる活動への参加につなげます。

アクションプランの進捗状況につきましては、28 ページ、29 ページに記載してございます。

1 から 4 の事業の進捗状況は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて「遅れ」となっている項目が多くなっていますが、今後も継続して事業の推進に取り組んでまいります。

30 ページをお願いいたします。

「3-2 学習成果の活用機会の提供」でございます。

「成果指標 9 年 2 回以上学習成果を地域に還元する団体の割合」については、令和 3 年度の実績は 66.1%で、達成状況は「×」となっております。

今後も引き続き、学習の成果を地域に還元する機会や、ボランティアと市民ニーズとのマッチング等の施策を進めます。

アクションプランの進捗状況につきましては、32 ページから 35 ページに記載しております。

1 から 5 の事業の進捗状況は、全ての事業が「順調」となっており、今後も引き続き事業の推進に取り組んでまいります。

36 ページをお願いいたします。

「3-3 市民の参加・協働による学習活動の推進」でございます。

「成果指標 10 住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合」については、令和 3 年度の実績は 44.8%で、達成状況は「○」となっております。

今後は、公民館運営審議会や運営懇談会の議論の活性化をはじめ、地域団体等と連携して主催事業を実施する等、地域課題の解決に取り組んでいけるよう支援を続けます。

アクションプランの進捗状況につきましては、38 ページ、39 ページに記載しております。

1 から 7 の事業の進捗状況は、一部「遅れ」はございますが、概ね「順調」となっており、今後も継続して事業の推進に取り組んでまいります。

以上が大項目「3 学びを生かしたコミュニティづくり」の説明となります。よろしくお願いいたします。

○（岩切会長）

ただ今の説明について、ご意見等ございましたらお願いします。

○（高橋委員）

この大項目 3 については、実際に行動することが必要な内容のものが多く、コロナ禍の影響もあり苦戦していらっしゃると思います。「今後の取組み等」にも記載されてありますが、このコロナ禍という状況下で、今後すぐに対応されようと思っていることがあればお教えてください。

○（内海生涯学習振興課長）

大項目 3 に限りませんが、社会全体的がコロナ禍前と同じように戻ることはないと思います。

そのようななかで行う「学び」は、対面とオンラインの双方で行うハイブリット式が考えられます。

オンラインについては、これからさらに充実させていく予定ですが、参加者は小さな子どもがいる等の理由で自宅から参加したいというパターンと、公民館に行き皆と一緒に参加したいというパターンの 2 つが考えられます。

ただ、対面で人と接するということがなくなるわけではございませんので、今までどおりの対面でも実施していく予定です。

これらの手法を今後充実していかなければならないと考えております。

○（岩切会長）

進捗状況を踏まえたうえで、先程から審議してきた第6次千葉市生涯学習推進計画が策定されつつあると思います。事務局のほうは十分反映させて策定にあたってもらえらると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

他にご意見等ございますでしょうか。

ご意見も無いようなので、本日の議事は終了させていただきます。

議事後、事務局からの事務連絡を行った。

問い合わせ先	千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課
電 話	043-245-5953
ファックス	043-245-5992
電子メール	shogaigakushu.EDL@city.chiba.lg.jp